



## 編集委員退任にあたって

2012年11月に前任者から引き継いで以来、約3年半の間、会誌編集委員会の専門委員会であるFWG（基礎・理論分野ワーキンググループ）の委員を務めさせていただきました。3年目はWGの幹事、4年目は主査を務めることになり、大変貴重な体験でした。ただ、弊社ではこれまで、それなりの入社年数の方々が歴任していた委員を、なぜ入社2年目の私が務めることになったのか、ととても不思議です。そして、FWGでは素晴らしい委員の方々がいるにもかかわらず、私が主査となったのも、今となっては魔法使いの仕業か世界線を間違えたのではないかと思えるほどです。しかし、これまでFWGに参加・運営し、興味深い記事を何本も会誌に掲載できたのも、委員の方々の多大なサポートと、著者の方々のご協力のおかげです。また、私自身も少しは成長できたかなと思います。この場をお借りして、皆様に感謝申し上げます。

さて、基礎・理論分野ワーキンググループと言いつつ、私の専門はWebマイニングや対話システムなど、そこまで（私のイメージする）基礎分野というほどではないので、数理学的話題や暗号理論に関する話題などの記事編集には、はじめは身構えてしまいました。ただ、会誌は研究会の論文誌ではなく、本会に所属する多くの読者に興味深く読んでもらうことが重要なんだ、と分かってから（腑に落ちてから）は、気持ちが楽になったのを覚えています。

4年目に主査になると、これまでは参加しなかった本会議に毎月参加することになりました。本会議では、編集長、本会議専任の委員、WGの主査が参加し、各WGから上がった企画や、持ち寄った特集企画の議論など、会誌のすべてを構成するための議論をします。初めて本会議に参加した感想は「ホントにほとんどすべての誌面をこのメンバで作り上げているんだ！しかも結構本気で！ボランティアだよね！？」でした。これまで学会の何らかの運営にかかわった方なら当たり前のことだと思われるのだと思いますが、それほどかかわる機会がなかった私にとっては、学会のリアルを見た気分でした。その中でも初回の本会議で私の興味を引いたのは、会誌で4コマ漫画を掲載しよう、というチャレンジングな企画でした。昨年から連載を開始した4コマ漫画である「IT日和」は、たしかにその企画の位置付けなど賛否両論はありますが、会誌という立ち位置において、ただ技術情報を伝えるだけではなく、親しみやすい雑誌にしたいという、編集長をはじめ委員の皆さんの意気込みの表れだと思っています。この企画は、その方向に向かうための象徴として、これからもどんどん良い雑誌になっていくのではないかと期待させてくれます。そして、微力ながら私もネタ提供をいくつかできたことは嬉しかったですし、編集会議の中でもほっこり楽しくなれる時間でした。（もちろん4コマばかりを考えていたわけではありません）。

4月からは、また一読者に戻りましたが、これからの会誌「情報処理」の進化を楽しみにしつつ、機会があればまた会誌に協力していきたいと思っています。3年半の間、ありがとうございました。

（伊藤雅弘／（株）東芝研究開発センター）



## 編集委員退任にあたって

2年前に職場の同僚に依頼され、編集委員として発行にかかわる側の末席を汚してまいりましたが、この3月をもって退任させていただくこととなりました。

編集委員に就任するまでは、一読者として会誌「情報処理」に接してきました。振り返って考えてみますと、購読している雑誌の中でも「情報処理」が最も購読期間の長い雑誌の1つとなりました。これまでの期間、毎号すべての記事をしっかり読み込んでいたというわけではありませんが、論文誌や会議録を読む際には狭い専門分野に閉じて深く読むということが多いのに対して、「情報処理」では幅広い分野の動向に接することができ、さまざまな興味深い特集や記事に触れることで目を開かされたことが思い起こされます。

編集委員として記事を読者の方々へ届ける立場に立つてみると、情報処理技術やその応用分野は非常に多岐にわたっており、記事の傾向も硬軟多種存在していることから、それをさまざまなバックグラウンドを持った読者の方々へ比較的限られた誌面で伝えることの難しさを痛感しました。

仄聞するところによれば、最近ではWebなどのオンラインメディアの発展によって、旧来の紙媒体は衰退気味であるようです。自分の状況を鑑みても、このところ紙媒体に接する機会は学生だったころと比較して随分と減少したように思います。Webなどのオンラインメディアや論文誌、会議録などが自分から情報を取りに行くpull型のメディアなのに対し、学会誌は編集委員会で決定した内容を与えられるpush型のメディアだとすると、予期しない分野の技術に少し深い技術的な内容を伴って触れる機会を得られるのが雑誌メディアの醍醐味ではないかと思っています。学会誌について、日々の仕事や学業の忙しさで、興味のある記事を中心に読むということも多々あるかとは思いますが、ぜひさまざまな記事に目を通して知識の幅を広げる機会としていただければと思います。私も、今後そのような観点で学会誌に接していければと考えています。

なお、在任中は「OSSに見るITの最新動向」、「自動運転システムにおける情報処理技術の最新動向」の2つの特集を担当させていただきました。自分の研究とは異なる分野でしたが、社会的に重要かつ個人的に興味のある分野を担当させていただいたことは存外の幸いでした。特集ではゲストエディタ、執筆者の方々、また、事務局の方々には大変お世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

（西山博泰／（株）日立製作所）



## 編集委員退任にあたって

2012年4月1日に編集委員を拝命して以来、早いもので4年が経過し、このたび晴れてお役御免と相成った。任期中、特集記事を2つ、解説記事を2つ、巻頭コラムを1つ、企画担当させていただいた。それぞれ、「《特集》モビリティの進化—先進的な交通社会を目指して—」Vol.54 No.4、「《特集》プログラム言語 Ruby の最新動向」Vol.56 No.12、「《解説》IT 融合社会—情報技術の新たな地平線—」Vol.54 No.2、「《解説》プライバシー保護データパブリッシング」Vol.54 No.9、「《巻頭コラム》電子計算機技術者はロバート・パーカーの夢を見るか？」Vol.56 No.6、である。励んだ方なのか怠った方なのかは定かではないが、たぶん中くらいなのであろう。

この記事を書くにあたり、学会誌の使命とは何かについてまさらながら考えてみた。本会のサイトを覗いてみると、『学会誌「情報処理」は、毎月全会員に配布されます。各分野のトップレベルの方々が、最新技術を分かりやすく解説しています。著名人による巻頭コラム、特集、解説、報告、連載、コラムなど』と、カジュアルに紹介されているだけで、使命的文言は特にない。

では、学会そのものはどうなのかと、再び学会のサイトを覗いてみると、「情報処理分野における最大の学会としての責任を自覚し、健全な情報化社会の実現を目指すべく、機関誌や出版物、社会提言を通じて情報を発信するとともに、研究成果発表や意見交流の場をより充実させ、社会と文化の発展により一層の貢献をしていきたいと考えています」となっておりこちらは使命

感が横溢している。

この文言に準拠したかたちで、学会誌の使命を急拵えで明文化してみると、「広く読者に有益な記事を提供することにより社会と文化の発展に貢献する」といったものになるのであろうか。実際、これに相当するものが、編集委員会では暗黙のうちに共有されていたように思う。

とはいえ「広く読者に有益な記事を提供する」ことは決して容易ではない。というかほとんど不可能である。なんといっても「全会員に配布される」のであり、会員層が多様であることにおいて本会是他学会を圧倒しているからである。会員層が多様であるのは、もちろん、情報処理の及ぶ領域が広大であり、仮想社会のすべてと実社会の相当部分を包摂しているからである。

このことは、2015年12月号の特集記事を担当して文字通り痛感させられた。筆者としてはプログラミング言語は情報処理における最大関心事の1つに違いないと思っていたのだが、モニタ制度を通じて聞こえてくる読者の声は残念ながらそうではなかった。広大な領域にある数多の関心事の1つでしかないようだ。現時点の最大関心事はおそらく人工知能であるとかIoT(モノのインターネット)あたりにあるのであろう。

そして、情報処理の及ぶ領域は現在も進行形で拡大しており、いずれ社会全体を被覆し終には社会と同義語にさえなってしまうのかもしれない。そのとき会員層の多様さは極大となり、「情報処理」は「文芸春秋」や「アエラ」と同じ棚に陳列されるようになるのかもしれない。そういえば塚本編集長の夢は「情報処理」が少年ジャンプになることであつた(厚さの点で)。

「情報処理」が今後ますます発展し、学会誌が「文芸春秋」か「アエラ」か「少年ジャンプ」になる日を夢想しつつ擲筆する。

(小野寺民也/日本アイビーエム(株)東京基礎研究所)



## 編集委員退任にあたって

この3月で編集委員を退任となりました。SWG(入った当時はHWGという区分だった気がします)のワーキンググループ委員を3年、それからグループ主査として会誌編集委員を1年務めたこととなります。特に編集委員としての1年は、塚本編集長の下、会誌をいかにフレンドリーに、また時代に即したものとするか、という編集委員会の熱気に触れさせていただき、情報分野らしい攻めの姿勢が学会にあることを頼もしく感じるようになりました。

本業の関係で何度もグループミーティングを欠席することになりつつも、面白いお話をさまざまに聞きながら、主査をなんとかやりとげることができました。震災関連の特集では、おこがましいと恐縮しながらも編集の辞を書かせていただき、分野横断的な空気に貢献できていれば嬉しく思います。会誌ならではの取り組みとして、論文ではやりにくいような分野横断的な特集をもっと増やしていけると良いのではと思っています。これを書いている3月末現在、ちょうど「乗り物とセキュリティ」の初稿が上がり

出しました。かわる特集としては最後になりますが、これもさまざまな分野にまたがった楽しい特集になりそうです。

多くの読者に面白いものを、と言っても、プロの手にかからない編集では限界があります。「毎月届けど読まないまま積まれていく」なんてこともよく聞かれる会誌ですが、意外とそんな「不要と必要の間」の存在こそ重要なのかもしれません。編集委員をやっているうちに、変化するニーズを捕まえる実験的なことのできるアンテナとして、会誌は活用できるのではないかなと思うようになりました。

心残りは編集委員の特権、巻頭コラムの著者推薦で、まずは成算関係なく勝手に好きなお名前を挙げて良いなら、と、研究者との対談でも文明と人間について鋭い指摘をされる「機動戦士ガンダム」の富野由悠季、人工知能関連で研究が進んだ今ならではのプロットが面白い脚本家の虚淵玄、最近の高校生にサイバー空間という往時の攻殻機動隊の代わりに名前を聞くようになった「SAO」の川原礫…、趣味丸出しのお名前を「若い会員にインパクトがある」と挙げさせていただいたのですが、実際の交渉を始める前に任期となってしまいました。どなたかが跡を継いで、いつか記事が読めたら幸せだなあと思う次第です。

(入江英嗣/東京大学)



## 編集委員退任にあたって

2012年4月より4年間、MWG（最初の2年間はBWG）の編集委員を担当いたしました。MWGは会誌編集委員会の会員サービス分野専門のWGであり、読者の皆様からのコメントをまとめた「会員の広場」や書評・会議レポートの閲読が主な業務内容です。

毎月、さまざまな記事に対して皆様から寄せられたいろいろなコメントを読ませていただきました。その内容は、示唆に富み考えさせられるご意見ばかりでしたが、そのほかで印象的だったのは、「興味がない」、「時間がなくて読んでいない」というコメントが意外と多かったことです。とはいうものの、私自身も編集委員になる前は会誌が届いても袋をすぐ破かず、まともに読むことはほとんどなかったのです。やはりそんなものなのかなという気がします。

そのような中で、会誌の存在意義が問われているように感じます。速報性ではWebはともかく新聞・雑誌等にも到底敵いません。また、紙面の都合上、内容も論文誌や専門書ほど

深く掘り下げられるものでもありません。さらに、皆様のバックグラウンドは情報処理といってもかなり多岐にわたるため、多くの読者に興味を持たれるような話題を毎月提供していくことは非常に難しいと思います。

ただ、編集委員を経験してみても実感しましたが、会誌記事の著者・編集者は皆様と結構近い場所にいたりします。そのような方々が、情報処理の技術者・研究者の視点から「いま伝えたいこと」を伝えるための記事を作られています。その文章は、論文のように淡々と論じるのではなく、「熱」がこもっています。そのような点は、会誌の強みになり得るのではないかと思います。

塚本編集長ほか編集委員の皆様のご尽力の結果として、会誌の中身もだいぶ変わってきていると感じます。著者・編集者の「熱」が伝わり、皆様に興味を持たれるよう工夫を凝らし、純粋に読んで面白いと感じる記事が増えてきたように思います。これからは私も読者の1人として、今後さらに面白くなっていく会誌を楽しく拝読していきたいと思います。

4年間、ありがとうございました。

（木村功作／（株）富士通研究所）

## 2016年度定時総会の開催について

会長 富田 達夫

2016年度定時総会を下記により開催いたします。総会の案内状は、5月中旬頃に法律上の社員である代表会員の方々にお送りいたします。ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

総会の議事議決権は代表会員の方々有しますが、もちろん代表会員以外の正会員・名誉会員の皆様も、積極的に総会に出席してご発言いただきますようお願いいたします。

記

- 日 時 2016年6月3日（金）15:00～17:20頃  
会 場 学生会館（〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28）  
次 第
1. 2015年度に係る報告
  2. 新名誉会員の推薦
  3. 一般規則の改訂
  4. 新役員の選任
  5. 2016年度に係る計画（報告）
  6. 会費滞納会員の取り扱い（報告）
  7. 表彰（功績賞ほか）

※総会終了後、講演会と交流会を行います。皆さまのご出席をお待ちしております。

照会先 一般社団法人情報処理学会管理部門